

体の動きを高める運動領域部会 実証授業①（部内授業）

1 体の動きを高める運動領域における自己評価の捉え方

一人一人が自己の体の動きを高めるために、学習課題を解決する過程の様々な場面で、学習課題や解決方法が自分に合っているかを、必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。



なぜ自己評価するのかな？
いつ自己評価するのかな？
何を自己評価するのかな？

（なぜ）一人一人が自己の体の動きを高めるために、
（いつ）学習課題を解決する過程の様々な場面で、
（何を）学習課題や解決方法が自分に合っているかを、
（どのように）必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。

◎自己評価活動を含んだ学習課題を解決する活動

「やってみる→問い→学習課題→運動→自己評価（学習課題や解決方法について）」のスパイラル。



子供の思いや願いを喚起し、子供自身がやってみて感じた問いをもとに学習課題を設定していくことで、子供一人一人が学習課題を見だし、体の動きを高めていく学習を実現することができる。

「なぜ運動・自己評価をするのか」などの目的意識や必要感が「いつ・何を運動・自己評価するのか」などの課題につながり、子供が「する」自己評価活動につながると考える。子供自身が「なぜ?」と目的を問うことが「いつ・何を」と課題を見だししていくことにつながる。

2 実証授業①（部内授業）で明らかにしたいこと

（1）自己評価の力が高まる第5学年の学習過程

子供一人一人が学習課題や解決方法が自分に合っているかを必要感をもって主体的に振り返ることができる学習過程を作成する。第5学年では子供が学習課題を見出すことを大切に、学習課題がより自分に合ったものに変容していくことが自己評価の力を高めることを明らかにする。

（2）個別最適な学びと協働的な学びの一体化

令和3年度の研究では、一人一人が自分の学習課題を見だし、解決する学習を実現することができた。令和4年度は、一人一人の学びを学級全体で共有し、協働的な学びへと発展させるための手立てについて明らかにする。

（3）一人一人が自ら深い学びを実現するための指導と評価

多様な学習課題が混在する中で、どのように子供の学習状況を評価し、指導と評価を一体化させていくのかを明らかにする。（2学期の実証授業）

3 学習指導案

(1) 実証授業実施校等

府中市立府中第六小学校

第5学年2組 児童：32名 指導者：主任教諭 坪根 裕也

(2) 単元名 体づくり運動「体の動きを高める運動」

(3) 単元の目標

知識及び運動	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	体の動きを高める行い方を理解するとともに、体の柔らかさや巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めることができる。
思考・判断・表現	自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりするとともに、動きのポイントやコツについて仲間に言葉や動作で伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。

(5) 児童の実態

自己評価をする機会は多くあり、程度は違うが全員が自己評価をしているものと思われる。表出されている姿としては、運動に取り組んでいる際のつぶやき、仲間との話し合い、助言、タブレット端末との向き合い、運動への取り組み方の変容などが挙げられる。

しかし、全員に同等の自己評価をしている姿が見られるわけではない。仲間との話し合いに参加しようとしないう、自分の動きを客観的に見ようとしないう、気の合う友達がいる場に固執するなど、自己評価をする力には差が見られる。

自分自身あるいは仲間とともに自己評価活動を進んで行う姿も見られる反面、なかなかその姿が見られないという二極化の実態があると言える。

(6) 子供自身が自己評価の力を高めていくための手立ての工夫

① 学習過程の工夫

第5学年では、第4学年までの「多様な動きをつくる運動（遊び）」の経験をもとに学習を進めていく。その際、第1時で「やってみる」時間を設定し、児童が学習経験を想起しながら学習を進め

ていく。その中で、児童がもった「問い」をもとに、一人一人が学習課題を見出し、解決していくような学習過程を設定した。児童自身が学習課題を見出すことで、自己評価する必要性につなげていけるよう学習を進めることができると考えた。児童は、『「問いをもつ」→「学習課題を見出す」→「運動に取り組む」→「問いをもつ」…』のような学習を繰り返すことで子供自身が自己評価する力を高めていけると考えた。学習過程上で、児童に取り組む運動について、「運動の適時性」や「体の動きを高めるための目的に迫れる運動」「動きのポイントを共有しやすい運動」「他者との関わりを生み出しやすい運動」を紹介していく。児童は、紹介された動きから興味関心をもった運動や自己の体の動きに応じた運動を選択しながら学習を進めていく。

② 教師の働きかけの工夫

実証授業①では、児童同士が関わる具体的な姿に応じて、教師が働きかけることを明確にすることで児童が自ら自己評価できる児童に変容していくと考えた。

児童の学習課題に応じて、「運動を行っていて楽しい」と感じている場合は、運動への関心、意欲を工場や、目的意識をもつことにつなげられるような働きかけを行っていく。また、「動きが高まって楽しい」と感じている児童には、体の動きの高まりの実感の仕方が理解できようになり、行い方の修正や活用ができたりするような働きかけをおこなっていく。児童と教師のかかわりをモデルに、児童同士のかかわりがより豊かなものにしていく。

③ 学習資料の工夫

本部会では、学習カードに児童の学習状況や学習の変容を児童自身が把握できるような形式を取り入れてきた。児童が行った活動を整理し、評価できるような学習カードを作成した。その学習カードには、「今日の自分の取り組みについて」「これからどうしたいか」という視点で記述し、次時以降の学びにつなげていけるようにした。この活動のような、「自己評価をするときの視点」を明確にすることで児童自身が自己評価できるようになると考えた。

(7) 学習過程 < 第5学年 体づくり運動 「体の動きを高める運動」 >

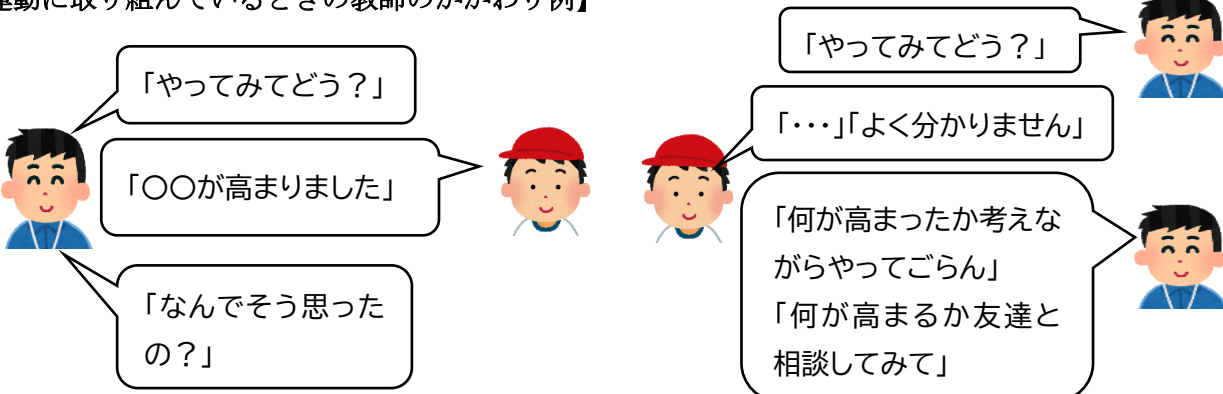
時間	1	2	3～6 (本時は第5時)		7・8	9・10
段階	問いをもち、学習課題を見出す		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。			学んだことを活用し、自己の体の動きを高める
学習活動・内容	1 集合・整列・挨拶					
	2	これまでの経験を振り返る	2	前時にもった問いを共有する	2 自分の学習課題や学びのロードマップを確認する。	
	3 準備運動					
	3	体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る	3	準備運動	4 力強い動きを高める運動(7時) 動きを持続する能力を高める運動(8時) に取り組む	4 体の動きを高める運動の動きを選択して取り組む
	4	準備運動	4	問いに対する答えを考えながら運動に取り組む		
	5	体の動きを高める運動をやってみる	5	整理運動	5 整理運動	6 振り返り
	6	運動を通しての問いをもつ	6	振り返り		
	7	整理運動	7	学びのロードマップ作りの確認をする		
	8	振り返り	6 整理運動		6 振り返り	5 整理運動
	7 振り返り		7 振り返り			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1・2時で児童が行うことができる運動 巧みな動きを高める運動 ○長なわ ○スラッグライン ○ボールキャッチ ○ボールドリブル ○リズムカルコース走 ○バンブーステップ</p> </div>		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>長なわ (タイミング) ボールドリブル (力加減) リズムカルコース走 (リズムカル)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>スラッグライン (バランス) ボールキャッチ (力加減) バンブーステップ (リズムカル)</p> </div> </div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・運動要素 ・取り組む動き ・運動の数 ・時間配分 等 <p style="text-align: center;">を自分で決める</p> </div>		

(8) 本時の学習 (5/10)

① 本時のねらい

学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動きを高める運動に取り組むことができる。

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮児童への支援	□評価
<p>1 集合・整列・挨拶</p> <p>2 自分の学習課題やロードマップを確認する。</p> <p>3 準備運動と場の準備をする。</p> <p>4 体の柔らかさを高める運動に取り組む。 (下記から1つ選択) ○ボール転がし ○輪くぐり</p> <p>5 巧みな動きを高める運動に取り組む。 (下記から1つ以上選択) ○スラッグライン ○ボールキャッチ ○バンブーステップ ※途中で場ごとに運動のポイントについて話し合う。</p>	<p>○児童の学習カードから「問い」「学習課題」「結果」を共有する。</p> <p>○部位を意識させるよう声をかける。</p> <p>○物を運ぶ際の安全面について指導する。</p> <p>○子供に問いかけることを意識してねらいに迫れるようにする。</p> <p>○動きが雑になっている場合は、ゆっくりと行うポイントを意識できるように声をかける。</p> <p>○本時で取り組む動きのものと動きを伝えてから運動させるようにする。</p> <p>○子供に問いかけることを意識してねらいに迫れるようにする。</p> <p>◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、自分や友達の取り組んでいる様子を客観的に見ることや、友達との相談をすすめるようにする。</p>	<p>□自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。 (運動・発言)</p> <p>□動きのこつやポイントについて仲間言葉や動作で伝えている。 (運動・発言)</p>
<p>運動に取り組んでいるときの教師のかかわり例】</p> 		
<p>6 整理運動・片付け</p> <p>7 振り返りを行う。</p>	<p>○各部位を意識して運動するように声をかける。</p> <p>○気付いたポイントや友達との関わりを意図的に取り上げるようにする。</p> <p>○課題解決の進捗状況を聞き、次回の見通しをもたせられるようにする。</p>	